

令和元年度 横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和元年10月28日（月） 10時00分～12時00分
- 2 場 所 横浜市大佛次郎記念館会議室
- 3 出席者 富岡 幸一郎 委員、中島 秀男 委員、八ッ橋 治郎 委員、米本 良子 委員（50音順）
- 4 欠席者 古本 悦子 委員
- 5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	<ol style="list-style-type: none"><li>1 委員長の選出</li><li>2 定足数の確認について</li><li>3 委員会の公開・非公開について</li><li>4 平成30年度業務評価</li></ol>
委員意見等	<ol style="list-style-type: none"><li>1 委員長の選出 議事に先立ち、「横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会運営要綱」第6条第1項に基づき、委員の互選により中島委員を委員長に選任した。</li><li>2 定足数の確認 委員数5名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</li><li>3 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。</li><li>4 議題「平成30年度業務評価」<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 評価関係資料について<ol style="list-style-type: none"><li>ア 評価資料及び評価方法の確認 事務局から、評価に使用する資料、評価方法について説明があった。</li><li>イ 指定管理者業務実績及び自己評価について 指定管理者から、平成30年度の文化事業、施設運営、維持管理及び収支決算などについて、実績及び自己評価についての説明があった。</li><li>ウ 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価について、要点の説明があった。</li></ol></li><li>(2) 指定管理者へのヒアリング 委員から指定管理者に対する質疑及び評価内容（評価する点、更なる取組を期待する点）の説明を行った。</li></ol></li></ol>

ア 「Ⅰ文化事業（１）」及び「Ⅱ文化事業（２）」について

(ア) 質疑（以下「・」は委員、「⇒」は指定管理者）

- ・大佛茶亭について、施設として茶亭公開などに参加していたが今後の対応はどうか。  
⇒ 茶亭公開は鎌倉市風致保存会が主催している事業で、施設は出張で展示等を行っている。今後の状況によるが、10月5日の秋の茶亭公開で公開自体は最後の予定である。
- ・建物ミニ・ミニトークというのはどのような内容であるか。  
⇒ 月1回、土曜日午後2時から15分間、職員が来館者のうち希望する方に建物の魅力、設計に込められた思い等を説明するものである。参加者は偶然来館し参加する方、ちらしの記載を見て来館する方と様々である。
- ・ねこ写真展の協賛企業の増加は、施設からの働きかけがあったからなのか。  
⇒ 施設から協賛のお願いに伺った。新たな協賛企業を得て、賞品を増やすことで応募の動機づけになり、集客につながると考えたためである。
- ・記念館の組織の人員体制はどのようなものか。  
⇒ 事務室は常勤職員2名、アルバイトが1名。研究室は常勤職員2名、アルバイトが1名の計6名で運営を行っている。

(イ) 評価

【評価できる点】

- ・観覧者数が大幅に増加した点。特にテーマ展示について、高い企画力と集客努力が感じられた。
- ・高校生の就労体験の受入に積極的に取り組んでいる。
- ・ねこ写真展の協賛企業獲得など、入場料や指定管理料だけではない収入の確保に尽力している。
- ・インターネットやSNSを使用した情報発信が積極的に行われている。
- ・3つのテーマ展において、それぞれ多彩な大佛次郎の魅力について掘り下げた展示を行った点を高く評価する。
- ・建築の魅力に着目した建物ミニ・ミニトークの立ち上げと、定期開催について評価する。
- ・ドレス撮影が目標を上回る実施回数を達成した点。
- ・QRコードを使用した音声解説を展示に取り入れる取組を行っている。
- ・地域企業や、団体への働きかけを活発に行っている。
- ・ミニ・ビブリオバトルに中高生を招待する取組を新規で行う等、工夫を凝らしている。

【更なる取組を期待する点】

- ・入館無料デーは施設の普及のために効果的に活用しつつ、有料入場者数を増やす取り組みも、継続してもらいたい。
- ・入館者の増加について内容を分析し、今後の運営に生かしてほしい。
- ・ねこ写真展は施設の看板イベントになりつつあるが、事業としての目的や位置づけを再検討してはどうか。
- ・テーマ展示の内容を、冊子・図録等の記録として残してほしい。
- ・SNSを使用し、大佛ファンの仲間づくりや、施設景観の魅力発信を積極的に進

- めることに期待する。
- ・展示やイベントのテーマバリエーションを増やし、施設を文化的コモンズへ成長させてもらいたい。
- ・浦辺鎮太郎建築に詳しい大学と連携について検討し、建築に関する事業につなげてはいかがか。
- ・ボランティア組織編成を実現し、大佛ファンの増加につなげることを希望する。
- ・地域連携の一環として、近隣の文学館を行ってはいかがか。
- ・記念館の建物は浦辺鎮太郎建築であり、その建物の魅力をアピールする取組を進めてほしい。

イ 「Ⅲ 施設運営」及び「Ⅳ 維持管理」について

(ア) 質疑（以下「・」は委員、「⇒」は指定管理者）

- ・施設の収蔵庫等の水害への対応はできているのか。  
⇒ 高台に建物があるので、浸水の被害は受けづらいと考えているが、台風や大雨の警報が出た際は隙間を塞ぐなど、事前の対策を行っている。
- ・オリジナルグッズの開発はどのように行われているのか。  
⇒ テーマ展等に合わせ、半年前から計画的に企画を行う。販売計画も考慮しながら、購入者が使いやすく、買いやすいと感じるアイテムを吟味している。

(イ) 評価

【評価できる点】

- ・電子マネーに加え、PayPay導入について評価する。
- ・オリジナルグッズの開発、カプセルトイの設置等の収入に寄与する取組を進めている。
- ・研修や視察を積極的に行っている。
- ・防災対策を確実にしている。

【更なる取組を期待する点】

- ・和室の利用率向上の施策として、外国人観光客向けの企画の打ち出しなど活用事例を検討してほしい。
- ・施設として、和室の利用について利用率の向上を指標とすべきか、など方針の見直しが必要ではないか。
- ・台風等の風水害への事前対策を入念に進めてほしい。
- ・防犯対策について、防犯訓練・防犯体制の強化に取り組んでもらいたい。

ウ 「Ⅴ 収支について」

(ア) 質疑

特になし

(イ) 評価

【評価できる点】

- ・ショップの売り上げ、施設利用料収入が予算を上回ったことを評価する。
- ・光熱費の削減や、超過勤務の削減へ取り組んでおり効果が出ている。
- ・おさらぎ選書の広告掲載社を増加させ、収入につなげた点を評価する。

【更なる取組を期待する点】

- ・長期的視点から、入館料を上げることも検討してはいかがか。
- ・収入増の目標を立て、引き続き施設活性化を図ってもらいたい。

エ 「その他」及び「総括」について

- ・少ない人数ながら、毎年新しいアイデアの企画展を実現し、入館者の増加につながっている点を評価する。今後も、魅力ある展示企画や、積極的な広報で大佛ファンを増やしていただきたい。
- ・「ヨコハマ物語」の企画展に代表されるような、立地を生かした企画や取組を評価する。また、近隣商店街等との連携が広がることを期待する。
- ・事業を充実させるとともに、人員体制に無理がないよう取り組んでももらいたい。
- ・平成30年度は非常に高く評価をする。これまで様々なテーマで展示を行っているが、例えば、大佛次郎と関連する文学者をテーマとし、他文学館との連携を図ることも検討してはいかがか。
- ・事業への積極的な取組を期待する一方で、職員の業務量増が懸念される。文学館の専門性、特殊性から残業が多い傾向にある。その矛盾解消に取り組みつつ業務を行ってほしい。
- ・指定管理者として、新規性・独自性を伸ばすことができた一年であった。施設の特徴を生かした取組が出来ていたと感じる。
- ・記念館の建築の特徴等を生かし、大佛次郎記念館ならではのイメージづくりや、企画を実施してもらいたい。業務については、労働上負荷を出さない取組方を工夫してもらいたい。

5 まとめ

本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを見直し、事務局で調整のうえ、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。